

「大学入試英語成績提供システム参加要件の確認結果」公表

河合塾

2018/3/27

このほど大学入試センターより「大学入試英語成績提供システム参加要件の確認結果」が発表された。大学入試センター試験に代わり 2021 年度入試より導入される「大学入学共通テスト（以下、共通テスト）」では、英語 4 技能を評価するため、民間の英語資格・検定試験が活用される。大学入試センターは、参加申し込みのあった 7 団体 24 の資格・検定試験のうち、23 の資格・検定試験について、大学入試成績提供システムの参加要件を満たすと認定した。以下、今回判明した内容を詳しくみていく。

■ 7 団体 23 の資格・検定試験が認定、一部条件付きも

大学入試センターは、共通テストにおける民間の英語資格・検定試験の活用を支援するために「大学入試英語成績提供システム（以下、成績提供システム）」を設けた。共通テストの志願者は、大学入試センターが認定した資格・検定試験（以下、認定試験）を高校 3 年生の 4～12 月の期間に受検し、大学入試センターは志願者の成績を一元的に集約し、その成績を大学等へ提供する仕組みだ。受検者の負担、高校教育への影響を配慮し、入試に利用するための大学入試センターへの成績送付申請は最大 2 回までとしている。

【図表 1】は、一定の参加要件を満たすとされた 7 団体、合計 23 の認定試験の一覧である。その顔ぶれを見ると、「実用英語技能検定（英検）」をはじめ、既に大学個別入試での活用が進む資格・検定試験が認定されている。

今回、参加要件を満たしていないと判断されたのは、「リングスキル」と「英検（従来型）」である。「リングスキル」は、ケンブリッジ大学英語検定機構が申請したが、日本国内での実施実績がないため要件を満たしていないと判断された。「英検（従来型）」は、一次試験合格者のみが二次試験（スピーキング試験）を受検できる仕組みとなっており、参加要件の「1 回の試験で英語 4 技能の全てを評価する」を満たしていないと判断された。

そのほか、「IDP：IELTS Australia」は、現時点では参加要件で求める「2 年以上」の実施実績を満たしていないものの、6 月には 2 年に達することから参加要件を満たしているものと認められた。

【図表 1】成績提供システム参加要件を満たす認定試験

	資格・検定試験実施主体名	資格・検定試験名
	Cambridge Assessment English (ケンブリッジ大学英語検定機構)	ケンブリッジ英語検定
1		C2 Proficiency
2		C1 Advanced
3		B2 First for Schools
4		B2 First
5		B1 Preliminary for Schools
6		B1 Preliminary
7		A2 Key for Schools
8	A2 Key	
9	Educational Testing Service	TOEFL iBTテスト
10	IDP:IELTS Australia	International English Language Testing System (IELTS) (対象：「アカデミック・モジュール」)
11	一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会	TOEIC® Listening & Reading Test および TOEIC® Speaking & Writing Tests
	株式会社ベネッセコーポレーション	GTEC
12		Advanced
13		Basic
14		Core
15	CBT	
16	公益財団法人日本英語検定協会	Test of English for Academic Purposes (TEAP)
17		Test of English for Academic Purposes Computer Based Test (TEAP CBT)
		実用英語技能検定（英検）
18		1 級 (対象：「公開会場実施」)
19		準 1 級 (対象：「公開会場実施」・「1 日完結型」)
20		2 級 (対象：「公開会場実施」・「1 日完結型」・「4 技能 CBT」)
21		準 2 級 (対象：「公開会場実施」・「1 日完結型」・「4 技能 CBT」)
22		3 級 (対象：「公開会場実施」・「1 日完結型」・「4 技能 CBT」)
23	ブリティッシュ・カウンシル	International English Language Testing System (IELTS) (対象：「アカデミック・モジュール」)

※大学入試センター資料より

■実施回数、検定料はさまざま

各認定試験の 2020 年度の実施予定回数や検定料なども公表された。実施予定回数は、期間中に 2～4 回実施としている試験が多いなか、「TOEFL iBT」「IELTS」は 20 回以上実施予定としている。検定料は、約 6 千～2 万 5 千円と試験によって設定額の幅が広がっている。また、全都道府県で実施すると公表した試験は 3 つに留まるなど、課題は多い。

大学入試センターは、受検生の経済的負担を極力軽減できるよう検定料について可能な限り配慮すること、居住する地域にかかわらず過重な負担なく受検できるよう実施会場の設定について最大限の努力をすることなどを各実施団体に求めている。

今後、文部科学省が実施する各高等学校等を対象とした意向調査の結果なども参考としつつ、検定料や実施回数については更に検討される予定だ。